



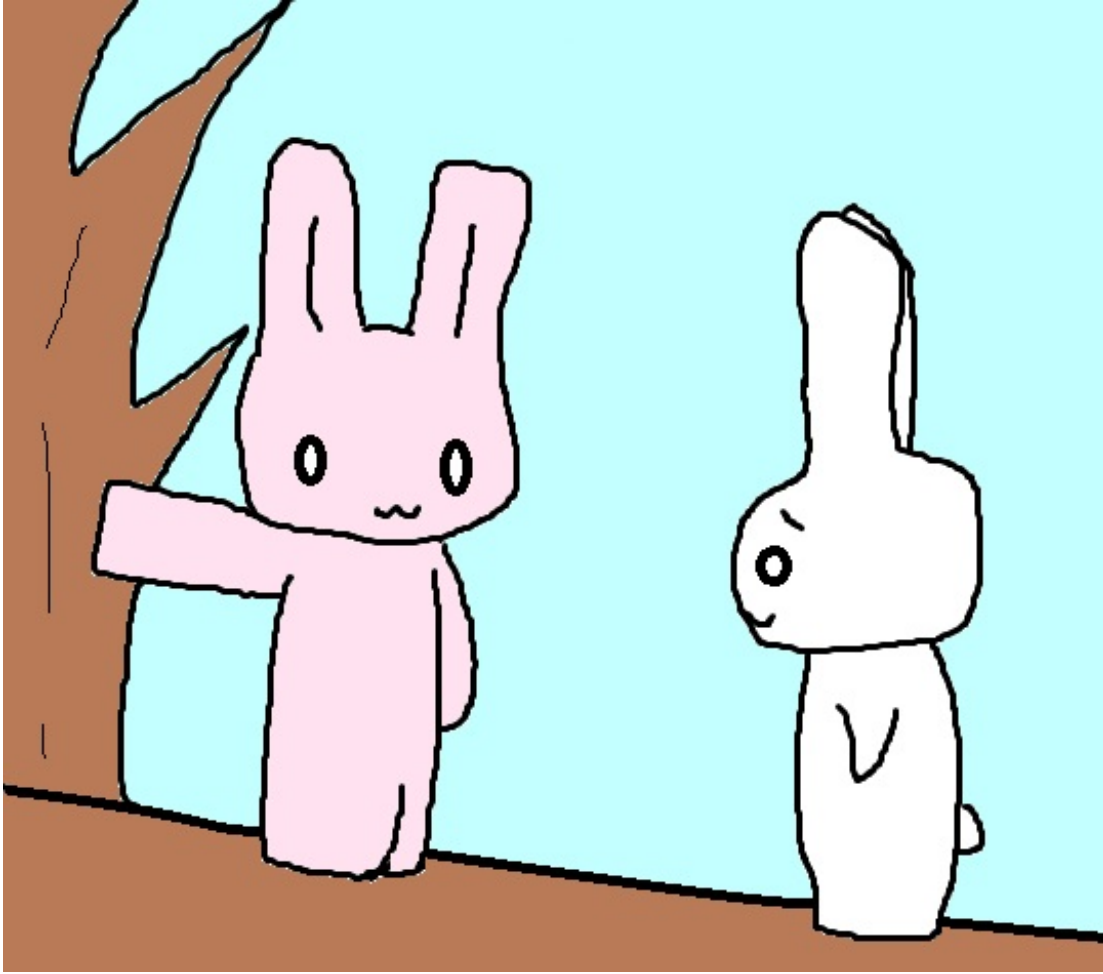
うさぎさんの  
わすれもの



うさぎさんは わすれてしまいました。

けれど なにをわすれてしまったのか おもいだせません。

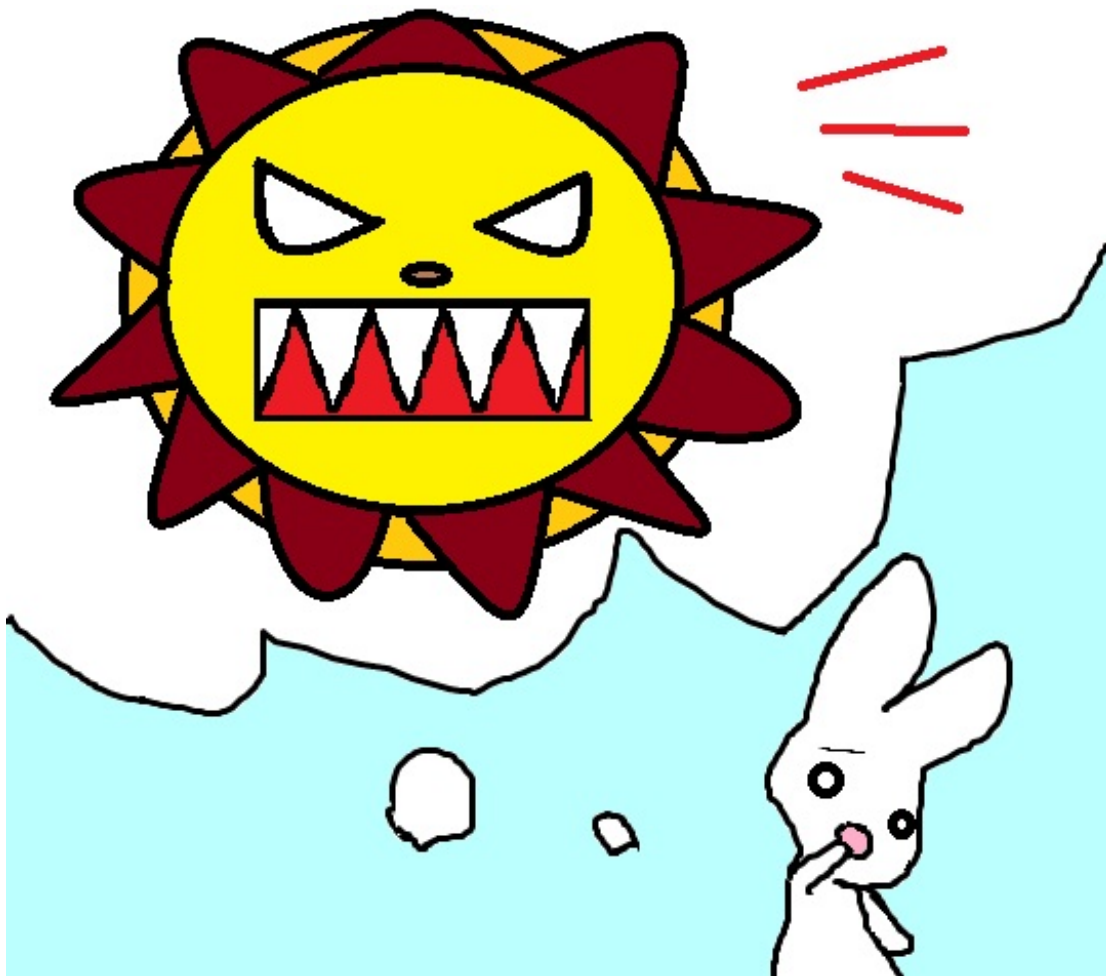
「ぼくは なにをわすれてしまったんだろう。」



うさぎさんは ともだちの ももいろうさぎさんに そうだんしました

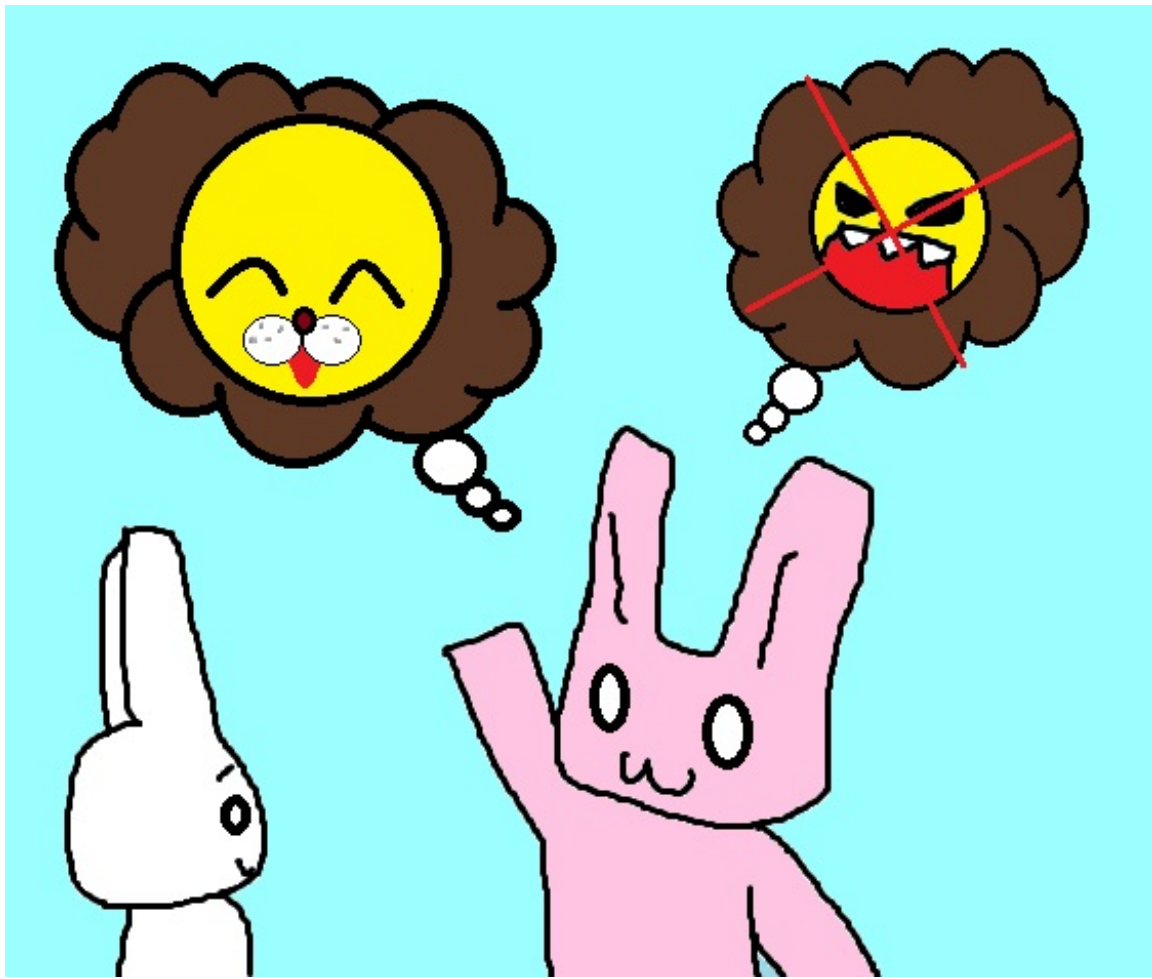
すると ももいろうさぎさんは

「それなら ものしりなライオンさんに きくといいよ」



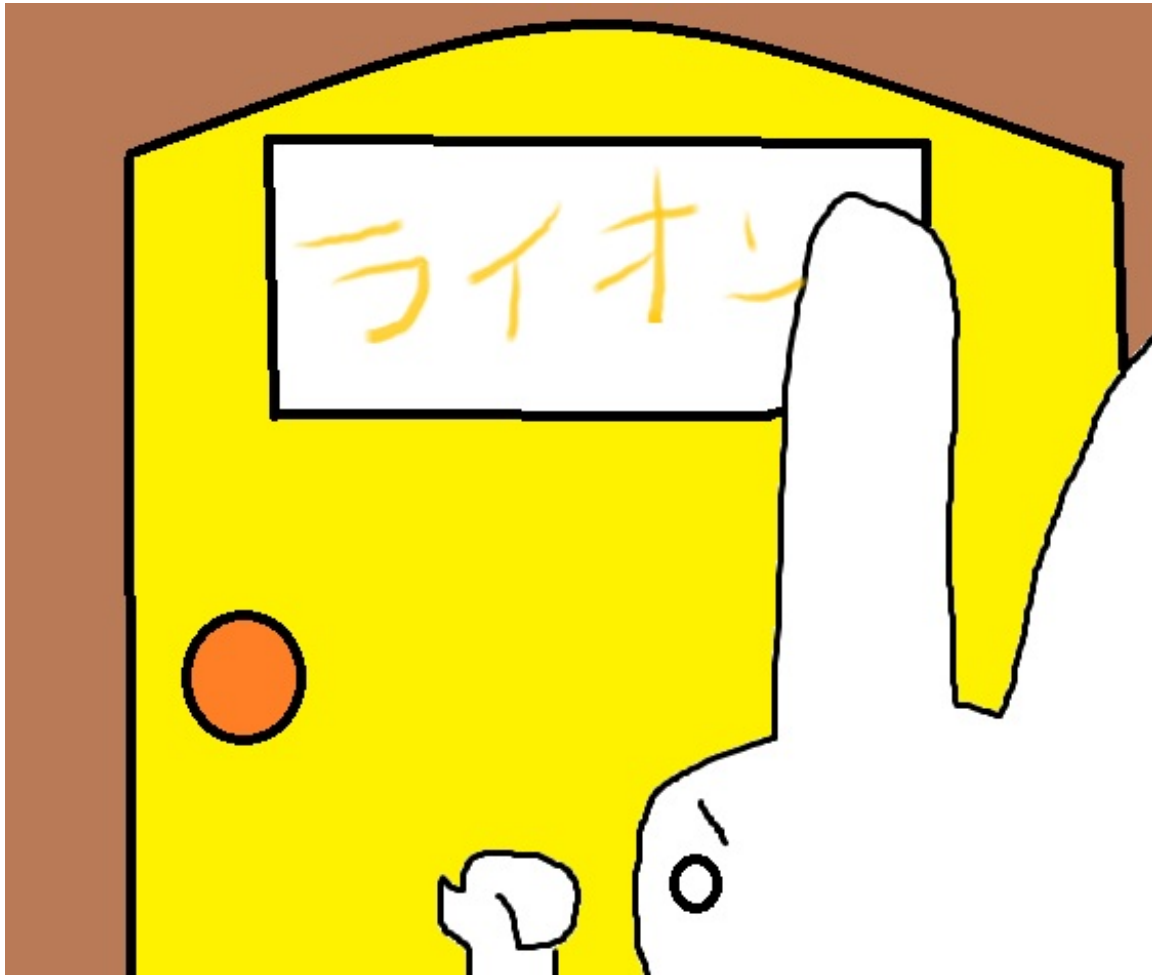
「ええ！ あの こわそうなライオンさんに きくの？」

うさぎさんは こまってしまいました



「だいじょうぶだよ ライオンさんはやさしいよ」

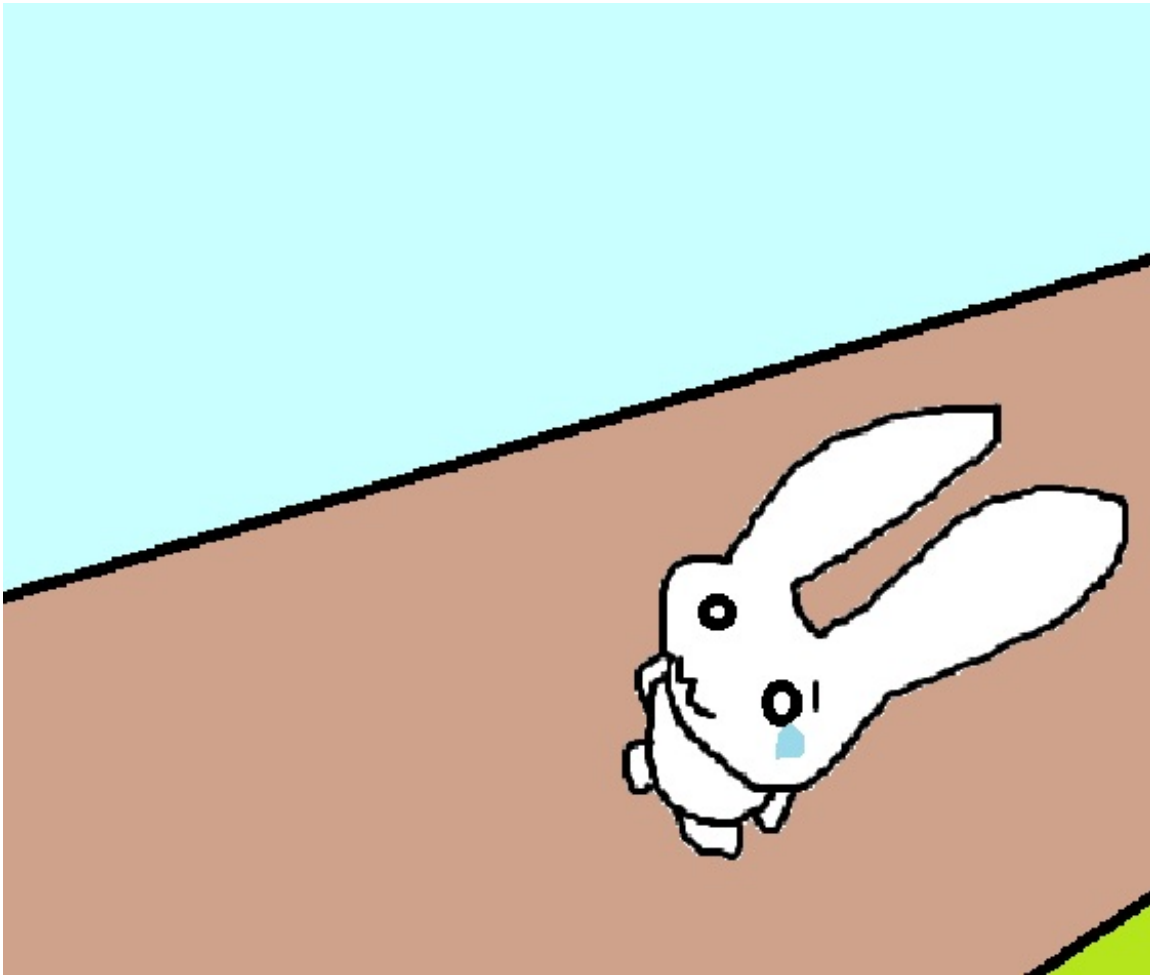
と ももいろうさぎさん ……ほんとかなあ？



うさぎさんは ライオンさんのところへ

いってみることに しました 「こんにちは うさぎです」

とびらを たたくと 「どうぞ」 ときこえてきました



けれど やっぱりこわくて うさぎさんは はしりだしました

「ライオンさんに きらわれちゃったかなあ」

たちどまって そらを見あげると たいようがみえます

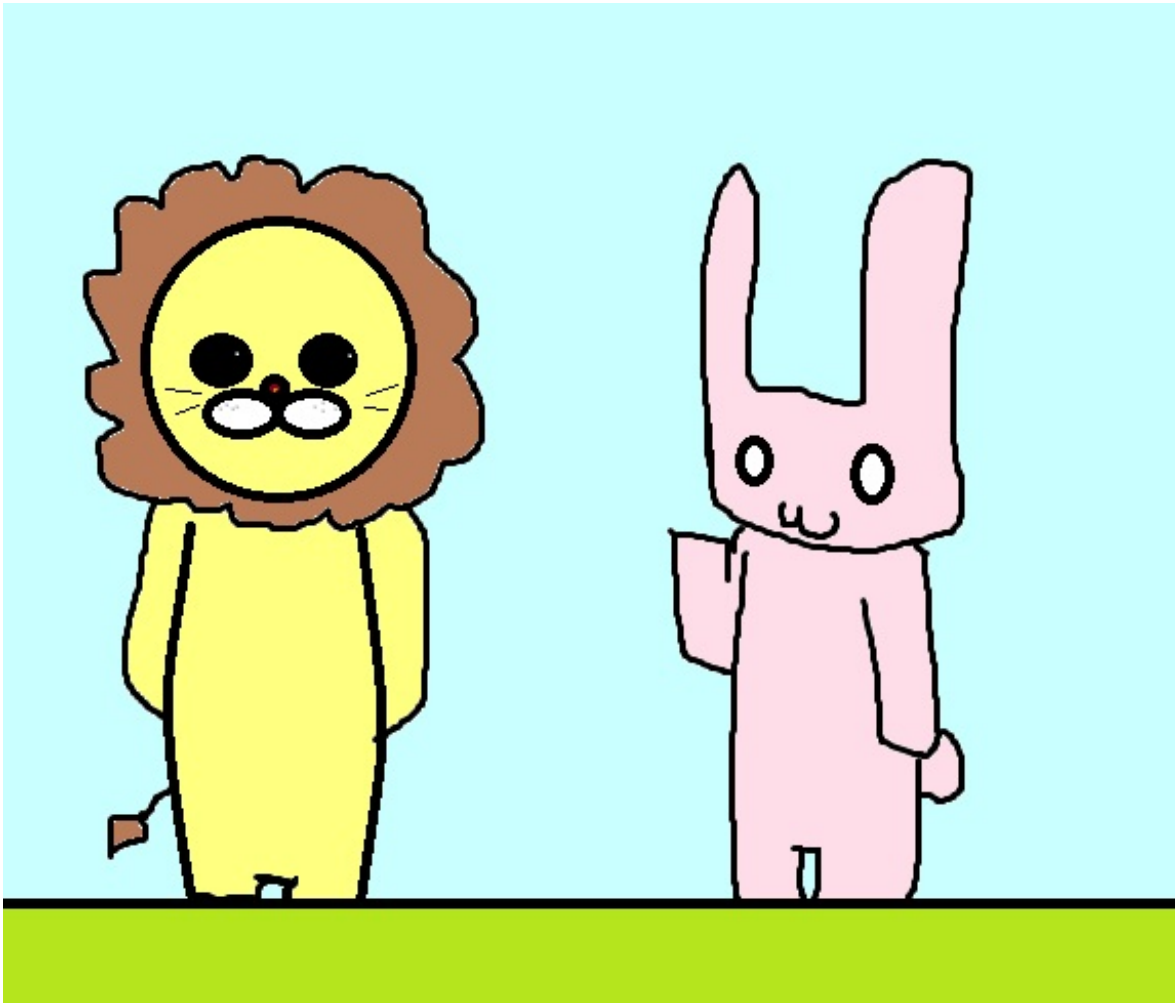
どこからか 3じのかねのねが きこえてきました

「ああ もうすぐ おやつのじかんだ」



「ああ そうだ おもいだしたぞ ぼくがなにを わすれていたのか」  
それから うさぎさんは じぶんのおうちへ はしっていきました





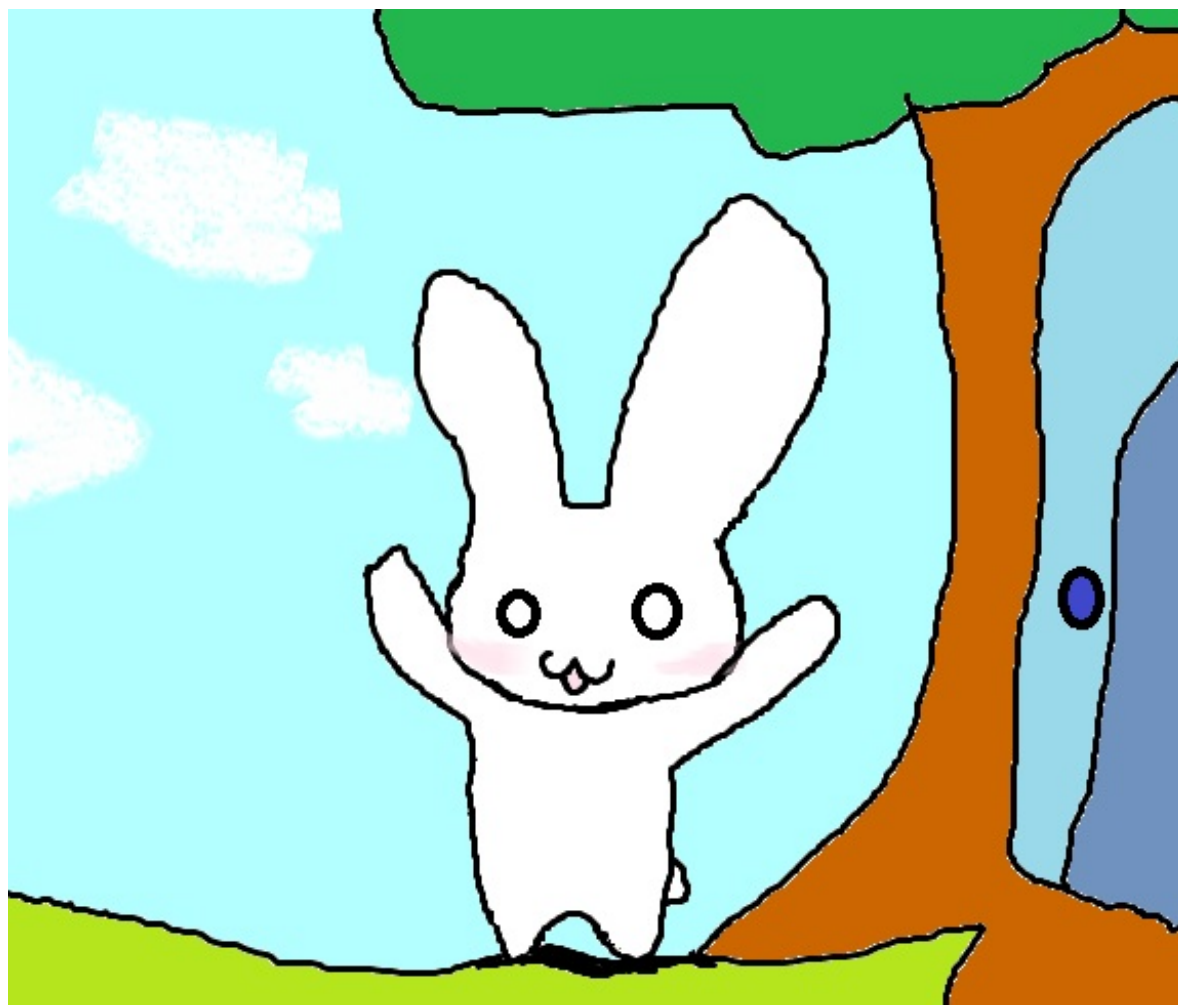
「やあ ライオンさん きみもうさぎさんに よばれたの？」

すると ライオンさんは いいました

「うん そうなんだ てがみが うちのポストに はいっていたんだ」

ぼくがあずけていた  
ことをおもいだし  
ました。おれいが  
したいのでうちへ  
あそびにきてくだ  
さい。うさぎより





「きてくれたんだね とてもおいしいケーキ をつくったことを  
おもいだしたんだ いっしょに たべようよ」